

## 第8回 佐野市政策審議会会議録（概要）

日 時

平成18年4月13日（木） 午後1時30分～午後3時30分

会 場

佐野市役所 本庁舎 大会議室 A・B

出席者

審議会委員：秋山欣治、加藤忠雄、林 一宣、芳村安司、内田瑞夫、上岡昭子、  
山野井宏、勅使川原唯男、森下市郎、吉澤慎太郎、岩崎幸夫、  
小野正弘、須永威、蘇原澄子、林部操

事 務 局：総合政策部長、市長公室長、政策秘書係長、市民病院事務部長、総  
務課長、庶務人事係長、事務局職員

傍聴者

5名

会議経過

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ（芳村会長）
- 3 連絡事項

欠席者が5名いるが、修正した中間答申(案)については意見が寄せられていないことを説明した。

（委員からの主な意見・質問等）

事務局が、訂正部分について説明した。

委員（小野）

本日、中間答申の再審査があるわけですが、その前に病院の事務局に聞きたいことがあります。

まず、政策審議会は昨年9月に発足しましたが、市民病院は非常事態という状況です。そして、毎回、病院として審議会の会議に出席しているのは、事務方の代表だけで、医療行為を行っている副院長、看護師長の出席がありません。院長も1回だけです。そのため、この政策審議会の熱気が伝わらないのが残念です。今後、誰かが、会議に出席されますようお願いします。

次に、市民病院運営委員会は、どのような審議がされているのかお聞きしたいと思います。

最後に、現在、医療事故が多発しています。市民病院内にも医療倫理審議会があるかと思いますが、その機能が十分発揮されているのかお聞きしたいと思います。なお、もし、セカンドオピニオン制度が病院内で確立されていなければ、前向に検討していただきたいと思います。そして、病院内に20以上の委員会があって活動をしていると聞きましたが、その実績について具体的にお聞きしたいと思います。

事務局

政策審議会の会議に毎回、院長、副院長が出席できれば理想ですが、診療業務に専念しているため、ご意見として伝えておきます。なお、中間答申がありますので、提

出後に可能な限り出席するようにしたいと思います。また、運営委員会は昨年1回会議を行い、1月には提言書を提出しました。内容は人件費の圧縮です。これにより市は、市民病院の職員と市長部局の職員との人事交流を実施しました。簡単にいえばベテランを出して、若い職員に入っていただき、組織の活性化を図るようにしました。市民病院から8名の職員が異動し、4名の職員を配置していただきました。また、減少した4名は、臨時や派遣職員で対応しています。この人事交流で大雑把に2000万円から3000万円の削減になったと考えています。

次に、院内委員会ですが、数字的に明確なものはだせませんが、職員がそれぞれ何ができるのか、真剣に議論しているところです。また、職員の減少に伴い、事故が多発するようでは困るため、医療安全委員会は月2回開催しています。

なお、倫理委員会の委員には院内のみならず、外部の人も招いて、委嘱させていただいております。

#### 委員（小野）

診療側の代表が出席しないと、医療面の現況が一切耳に入ってこなくなります。事務方のおおざっぱな話がありますが、現実が知りたいのです。また、中間答申は具体的に書かなければ、絵に書いた餅になります。

#### 秋山副会長

市民病院運営委員会の委員に、院長、副院長が入っています。そして、委員会で政策審議会の状況も話をしています。そして、運営委員会で細かな経営に関する審議をしております。

#### 芳村会長

中間答申では、細かなことまでいえないと思います。

#### 委員（蘇原）

中間答申（案）は、中間答申の序文であり、この後に、審議会としての本音の答申を付け加えさせてほしいと思います。

先日、研修会で勉強しましたが、自治体病院の経営原則は、受益者負担の原則になじまない経費以外は、完全な独立採算の原則が適用されているそうです。今回は、中間答申ということで、経営形態まで言及しないとのことですが、赤字病院の改善は遅れば遅れるほど傷口が大きくなるといわれています。この審議会が改革の隠れ蓑にならないように、本音で答申する必要があると思います。たとえば、MRIのような高額な医療器械の購入についても指摘する必要があると思います。

また、病院の改革は、期限をつけて実行しないと実現できないという話もありました。中間答申にも期限を付けて実行できることは、実行するよう盛込むべきだと思います。

研修では、埼玉県立病院の改革の成功例も勉強しましたが、知事のリーダーシップ、強力な病院管理者の招聘、スピード、現場の意見を聞く、目標を設定して競争させるなど、いろいろ参考になりました。

佐野市は、現場の声を聞いておりません。中間答申に現場の意見を聞くことを盛り込み、病院職員の小さな改革についての意見も採り入れる必要があると思います。

最後に、現体制で改革が不可能なら、公的病院職員の身分についても検討の対象にすると明言し、職員に危機感をもってもらうことも重要だと思います。

#### 委員（加藤）

蘇原委員の意見を私は支持します。また、最終答申で、具体的な経営について実行可能な答申をしたいと思います。

秋山副会長

今、MRIの話がありました。旧県南病院時代から2年ぐらい、診断学的に性能が悪くなってきたため、更新の希望が出ていました。しかし、市民病院運営委員会ではこれまで却下してきたもので、やっと、平成18年度予算で市が認めたようです。MRIの本体は1億4千万円、周りの壁をシールドするために1億円かかるようです。

委員（蘇原）

予算に計上されていても、支出については最少の経費ですませるよう努力すべきだと思います。

芳村委員長

蘇原委員の意見は、これからのことと思います。医療機器は種類が多く、私の知っている宇都宮の病院では、機械がすばらしいため何ヶ月も前から予約が入っています。いずれにせよ機械についてここで検討しても、答申の中に入れられないと思います。また、中間答申が出れば、委員の熱意が市会議員議員も含めて伝わると思います。

委員（小野）

時代の変化に対応した病院ということで、いくつか具体的に意見を述べさせていただきます。

まず、少子高齢化並びに地域の必要性から考えると、小児科、産婦人科、介護老人保健施設、包括介護支援センター、回復期リハビリ病棟の充実並びに人工透析利用の効果を図る。

次に、地域の医療の必要性及び市民のニーズが高く、特色のある診療科の新設を検討する。例えば心療内科です。心療内科は佐野市に1軒しかありませんが、パニック障害やリストラによるうつ状態など、世の中が非常に便利で、拝金主義で、効率を優先しているためこういう疾患が非常に多いです。しかし、医療機関は少なく、いっても満杯の状態です。また、女性外来は市民病院にありますが、機能していません。そして、思春期内科は、登校拒否や拒食症、いじめなどありますが実際相談できる病院がないのです。自治医科大学にこの診療科がありますが、中学になると1クラスに2～3人くらい不登校がいます。こうした診療科は、市民病院しかできないと思います。こういった特色ある診療科の新設していただきたい。

さらに、病院の広報活動の一環として、広報活動を積極的に実施してもらいたい。広報紙や新聞を利用して情報を発信していただきたい。

また、病床の利用率です。経営的には95%以上の利用率がないとだめだといわれています。現在、70%くらいと聞いていますが、稼働率をあげるために有料個室を設けてはいかがかと考えています。

次に、病院内における患者サービスの一層の充実を図ること。例えば公募による市民ボランティアや佐野短期大学生、市のシルバー人材等を積極的に活用し、市民参加により病院内の活性化と人件費の節減を図ることになります。小山市民病院では市民ボランティアの案内係等を公募したところ、あふれるくらいの人々が来たそうです。こうしたボランティアを活用して市民と一体的な病院作りが重要だと思います。

さらに、医療相談及び小児医療に対する電話の相談室の充実を図ること。

以上を、中間答申の中で具体的にに入れていただきたいと思います。

なお、中間答申の最初に、答申の内容を要約したものを付ければ、判りやすいと思

います。

最後になりますが、一番大切なことは、医療の質とサービスを低下させることなく、市民病院の経営責任を明確化した組織改革を早急に行い、病院の経営改革に邁進すること。そして、改革期間を約2年間と明確化する必要があります。そして、その期間に、経営の改善が見られないときは経営形態を見直すこと。ここまでの表現に留めて中間答申にすべきだと思います。

芳村会長

小野委員がいった診療科目の検討など、答申は実態が判らないままその内容を入れるというのは早いと思います。最終答申に向けて必要かもしれませんが、我々はまだ細かいことは検討していません。また、蘇原委員がいわれた機械についても、専門的な知識がなければ判断できません。我々がこれから調査、審議しなければならない部分が多くあるのです。

委員（上岡）

経営状況をみて、自治体病院としてやっていくのはどうかという意見が、かなりあったと思います。中間答申としては、市民病院として改善をしていくということが前提になっていますが、経営形態をかえていくという意見がかなり強かったと思います。やはり市立病院としてやっていくのは、かなり疑問であるということ、経営形態を替えた方がいいということ強く入れた方がいいと思います。

秋山副会長

中間答申は、病院の理想について書かれたものですから特別なことは書いてないと思います。この会議では、まず、病院は存続すべきかどうかを検討してもらい。必要なら後半で経営形態について議論していくことになります。今までの意見では存続ということでしたから、中間答申はそれでいき、最終答申では当然、経営形態の検討になると思います。

委員（加藤）

中間答申ですから、蘇原委員や小野委員の意見で加えられるものは加え、最終答申で市民病院としてやっていくのか、結論を出すのが良いと思います。

委員（蘇原）

高額な機械の購入については、今後、検討していただきたいということ、ぜひ、入れていただきたいと思います。また、全職員の意識改革がなければ、病院の再建はできないと思います。これは、現場が一番判っていることですから、職員の意見を聞く事は盛込んでもらいたいと思います。

芳村会長

この中間答申は、当然病院にいき、検討されると思います。しかし、審議会で検討されたことが全部実現できるわけではありませんが、その熱意は伝わると思います。

一般的に、中間答申ではあまり具体的な細かな点に触れません。法律で例えれば、細則など細かな点に触れることはないと思うのです。

委員（内田）

内容的には、経営責任体制の確立ということが、一番、重要だと思います。これが進めればかなり改善すると思います。しかし、今も、経営が続いていますから、でき

るだけ早く決断していただき、実行していただくしかないと思います。そして、中間答申ですからあまり細かなことは書いても仕方ないと思います。医業収益を増加させて、経費を削減することが最も重要なことと思います。

委員（須永）

医師の不足が、早く解決しなければ何ともできないと思います。しかし、大学の医局が医師に、この病院へ行けといえた時代は終わったと新聞にでていました。そのため、医師を招きやすくするための魅力ある体制作りが大切で、さらに、女性医師の環境整備も必要だと思います。

獨協医科大学から派遣される、医師の見込みはいかがでしょうか。

秋山副会長

4月10日に市長が、獨協医科大学の寺野学長に会いました。今年、大学では50人くらいの新入局者がいます。そして、来年、再来年と大学の入局者は増えていきます。学長は2年たったら何とかかなりますよといっています。確約ではありませんが2年間は辛抱してくださいという話は伺っています。

委員（小野）

内田委員のいうとおり、現在も経営が動いていますから、何とか経営改善をやっていくようその手段を考えることが大切だと思います。

委員（岩崎）

病院を預かる院長として、市民病院をどのように運営していったら良いのか。院長の考えがあるかと思います。そうした考えをぜひ聞きたいと思います。

委員（林）

あくまで中間答申ですから、この内容で十分だと思います。そして、最終答申で経営形態の問題に入らないといけません。はじめから人件費より医療収益が低いというのは変だと思います。なお、経営形態の変更には、ある程度の予算を投入しなければならないと思います。

そして、遅れれば遅れるほど、赤字額の投入金額は増えると思います。その点は、スピードとの勝負だと思います。

芳村会長

小野委員の意見もある程度、中間答申案に盛り込まれています。全部入れますと、重箱の隅をつつつくようなことまで書かなければならないと思います。そして、出した以上こちらでも検討する責任もあります。その点もご理解をお願いします。

委員（林）

中間答申の内容は、この内容で十分だと思います。病院の経営改善のためには、収益を増加させるために医師を確保するのが最優先で、歳出の人件費を減らすことがベストだと思います。医師の確保について栃木県の現況をみると医者が減るばかりという印象です。その点で、言葉では医師の確保といえますが、本当に優秀な医師の確保ができるのか心配です。医師数だけ増加させるというのでは、人件費は上がるが、収益は上がらないということになります。

また、経営形態については、最終答申で見直すことも考えられると付け加えれば良いと思います。

委員（蘇原）

先ほど、2年たてば医師の派遣は大丈夫という話を聞きましたが、地方の医師不足は深刻です。2年たてば大丈夫ではなくて、足利赤十字病院を含めて、病院の機能分担化を進め、現在の医師で何とかできる体制にしないといけないと思います。その点で病院間の機能分担ということを強調して頂ければと思います。

委員（林部）

医師不足の中で、現在の医師で何ができるのか。そして、医師には専門がある分野があると思いますので、医師不足でも収益を考えることはできると思います。但し、療養型のベットを一般床に替えた場合、再度、戻すのは困難だと思います。

また、医師は不足していても、職員は十分いると思います。そして、その職員がどのように考えているのか、意見を聞き、魅力ある市民病院にする必要があると思います。

芳村会長

細かいことは市民病院運営委員会でも、検討がされると思います。ここでは中間答申ですから、この内容で了承していただきたいと思います。